

# Hib<sup>ヒブ</sup>ワクチン接種をご希望の方へ

～ 予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください。～

## 1. 乳幼児の細菌性髄膜炎とHib<sup>ヒブ</sup>(インフルエンザ菌b型)

- ①体の中で最も大切な部分ともいえる脳や脊髄<sup>せきずい</sup>を包んでいる膜を髄膜<sup>ずいまく</sup>といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎<sup>さいきんせい</sup>」と細菌以外(ウイルスなど)が原因の「無菌性髄膜炎<sup>むきんせい</sup>」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。
- ②乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌は幾つかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌b型」という細菌で、略して「Hib(ヒブ)」と呼ばれています。Hibは冬に流行するインフルエンザ(流行性感冒)の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、Hibは乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。
- ③Hibによる細菌性髄膜炎(Hib髄膜炎<sup>ヒブ</sup>)は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後3ヵ月から2歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は、予防接種導入前は少なくとも600人と報告されており、5歳までに2000人に1人の乳幼児がHib髄膜炎にかかっていることとなります。
- ④Hib髄膜炎にかかると1ヵ月程度の入院と抗生物質による治療が必要となりますが、治療を受けても約5%の乳幼児が死亡し、約25%に発育障害(知能障害など)や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では抗生物質の効かない菌(耐性菌)も増えてきており、治療が困難になってきています。
- ⑤その他にもHibは、肺炎、喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引きおこします。

## 2. Hib<sup>ヒブ</sup>による感染症を予防するHib<sup>ヒブ</sup>ワクチン

- ①接種年齢は、2ヵ月齢以上になれば受けられます。望ましい接種スケジュールは、初回免疫として生後2ヵ月から7ヵ月になるまでに接種を開始し、4～8週間間隔で3回、追加免疫として3回目の接種からおおむね1年の間隔をおいて1回の計4回の接種です。[予防接種実施要領(平成25年3月30日発)では初回免疫終了後7～13か月の間隔をおいて追加接種をすることが推奨されています]
- ②接種開始が7ヵ月以上12ヵ月齢未満の場合には、4～8週の間隔で2回、追加免疫として2回目の接種からおおむね1年の間隔をおいて1回の計3回接種します。[予防接種実施要領(平成25年3月30日発)では初回免疫終了後7～13か月の間隔をおいて追加接種をすることが推奨されています] 接種開始が1歳以上5歳未満の場合は、1回接種します。
- ③Hib<sup>ヒブ</sup>ワクチンは、4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体(免疫)ができ、Hib<sup>ヒブ</sup>感染症に対する高い予防効果が認められています。
- ④Hib<sup>ヒブ</sup>ワクチンの接種後に、他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)です。また発熱が接種された人の数%におこります。重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。
  - (1)ショック・アナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難など)、
  - (2)けいれん(熱性けいれん含む)、
  - (3)血小板減少性紫斑病。
- ⑤このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程

を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界100カ国以上で使用されており、1億5000万回以上接種されていますが、このワクチンの接種が原因でTSE(伝達性海綿状脳症)にかかったという報告は1例もありません。したがって、理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人がTSEにかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

### 3. 次の方は接種を受けないでください

- ①明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

### 4. 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

### 5. 接種後は以下の点に注意してください

- ①接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

「<sup>ヒブ</sup>Hibワクチン接種申込書・予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。もし、ふだんと変わったことがあった場合には医師にご相談ください。

<sup>ヒブ</sup>Hibワクチンの接種により健康被害が発生した場合には、「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられる場合があります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

接種予定日	月 日( ) 時 分頃	医療機関名	
-------	----------------	-------	--